

# 平成28年度第2回「墨田区子ども・子育て会議」 「評価指標検証ワーキンググループ」議事要旨

日時：平成28年5月18日（水）午後6時30分～8時20分

会場：墨田区役所 121 会議室

## 次 第

### 1 開会

### 2 議題

議 題	資料
(1) 評価指標について	資料1
(2) ニーズ調査について	資料2～5
(3) インタビュー調査について	資料6
(4) その他	

### 3 閉会

## 配布資料

資料1	評価指標
資料2	就学前のお子さんの保護者の方用ニーズ調査
資料3	小学生のお子さんの保護者の方用ニーズ調査
資料4	成人前の方用ニーズ調査
資料5	成人前ニーズ調査について（アンケート調査とインタビュー）
資料6	座談会方針の個別インタビュー

## 出席者（敬称略）

### 委員

西島 由美（にしじま小児科院長）

森 八一（青少年育成委員会連絡協議会副会長）

熱田 美帆（公募）

小林 佳香（公募）

佐藤 摩耶子（公募）

陳 晨（公募）

近藤 ゆき江（八広幼稚園長）

青塚 史子（八広保育園長）

< 欠席委員 >

木村 律子 (公募)

荘司 美幸 (公募)

関 舞衣子 (公募)

< 傍聴 >

なし

部課長出席者

浮田 康宏 (子育て支援課長)

事務局出席者 (検討チーム含む)

岩佐、酒井、土井

事務局 (株名豊)

糸魚川

2 議題

(1) 評価指標について

[ 協議趣旨 ]

- ・インタビュー調査の方向性の確定に向け、WGの趣旨から、まず評価指標そのものに修正等の必要があるか協議した。

[ 協議結果 (まとめ) ]

- ・指標のそれぞれに対して対象を含め、疑問がある指標もあるが、指標設定時期から年数もあまり経過していないことから、今回は指標について変更しない。

[ 課題 ]

- ・指標別に調査元等を明確にしておく必要がある。

事務局	このワーキングの趣旨からも評価指標そのものについてこのままで良いか確認したいのと、インタビュー調査がニーズ調査の報告書と別にまとまっており、計画に反映していると言い難いところがあるかどうか。
委員	せっかくインタビューするのなら、全部計画に反映しないとおかしい。
委員	指標自体は修正しない方がよいと思っていた。しかし、中学生に「子どもがほしい」と思うというのは意味があるのかと思うところもある。「将来子どもがほしい」を思う割合を中学生や高校生で70%にしたいというのは、私自身は学生時代には、そう考えたことがなかったが、これは指標になるのだろうか。「ずっと住み続けたい」というのは大事だと思う。これが一番反映されるのではないか。そして、「楽しいか」と聞いたときに子どもは結構楽しいと答えるが、「楽しくない」と聞いたら楽しくないと答えるのではないかという気もする。子育て家庭に聞いた場合も、「楽しいと感じることが多いですか」と聞けば多分「はい」

	<p>と言うし、「辛いところが多いですか」と聞いても「はい」と返ってくると思う。また、父親が「自分から積極的に子育てに参加している」割合というのも引かかったが、アンケートで答えているのは母親が多かった。母親から見て父親が子育てに参加していると思うのと、父親が自分自身で参加していると思うのでは答えが違ってくると思う。誰に聞くかによって答えが変わってくるので、具体的に聞いていかなければ、なんとなくの調査になってしまう。</p>
委員	<p>私は仕事で統計の仕事をしているので思うのだが、そう思っている人の割合や、自分が子育てに「参加している」、「していない」というのは主観なので、統計的な処理として線引きするのが難しい。ここでどんなに言ってもしょうがないと割り切るしかない。</p>
委員	<p>それでも、数字的なところは客観的にわかるので、例えばパパママ育休プラス制度が始まり、ごくわずかだが上がった。こういうケースは、父親が取得した割合も、目標指数が昨年と比較というのもよいが、全国平均と墨田区を比較するなどの目標設定するのもよいと思う。また、墨田区で父親が育休を取りやすいような制度や企業指導をしているのであれば聞くべきだが、特にやっていないのであれば、わざわざ聞くべきではないかと。</p>
委員	<p>男性が育休を取った会社がどれだけ増えたというのなら、数字として出ると思う。</p>
委員	<p>指標についてはこのままでよいのではないか。</p>

## (2) ニーズ調査・インタビュー調査について

### [ 協議趣旨 ]

- ・評価指標の方向性にに基づき、インタビュー調査で聞く内容を再検討した。

### [ 協議結果(まとめ) ]

- ・インタビュー対象は、前回ワーキングにおいて決定した、障害のある子どもの保護者、学童クラブ指導員・PTA、高校生とし、変更はなし。
- ・事前シートは実施するが、統計処理をするものではなく、インタビューの意見を掘り下げるためのツールとして実施する。事前シートで個人を特定しすぎないように配慮する。
- ・学童クラブ指導員とPTAは同時実施か単独実施か意見が分かれた。
- ・すべてのインタビュー対象共通で「今後、墨田区でできることや支援が必要なこと」を追加した方がよいのではないかと。(短期・中期・長期的に解決してほしい優先順位)
- ・障害のある子どもの保護者については、「将来に対する不安(困っていること)」を追加した方がよいのではないかと。
- ・学童クラブについては、これからはじまる「放課後子ども教室」について聞いてみたいので、学齢の先生にも参加してもらった方がよいのではないかと。
- ・外国人の家庭の子育てについて聞くことができる配慮が必要ではないかと。
- ・ニーズ調査について、子どもの携帯等の使用率とその時期を聞く設問があるが、子ども専用なのか不明確となっているので修正する。

### [ 課題 ]

- ・高校生について学校側の協力が必要ではないかと、障害のある子どもの保護者の抽出は困難ではないかと、どのように対象を抽出するか課題がある。

事務局	区側の意見としては、今回は個別の障害者政策ではなく、子ども全般の計画なので、広め に取っておく必要があると思っている。意図的にそうした意見を拾い上げていく方法として インタビューをすることがどうか。
委員	基本的にはアンケート調査に沿うようにインタビューを3本構成で実施する。学童クラブ 指導員・PTAから、どういう人を集めて、どこで、どういう形式で、何を聞くかというこ ろのご意見をうかがいたい。
委員	学童クラブ指導員とPTAは一緒なのか。
委員	一緒だと質問がややこしいのではないかな。
委員	今回は、事前調査シートは、実施するのか。
委員	インタビューの方は自由討論になっているため、数字が出てこないが数字は必要なのか。 必要であれば事前調査シートを実施しないといけないのではないかな。
事務局	参考意見を幅広く吸い上げて載せるというのならば必要ないのではないかな。
委員	インタビューするからには、これを聞いたことによってどう反映するのか、対象者に説明 が必要だと思う。
事務局	計画の中に結果として盛り込むのが1つの対応の仕方、ニーズ結果の後ろに参考となる 意見としてインタビューで拾ったものを載せるというのがもう1つの対応方法だと思う。
委員	事前シートでは必要最低限を聞いた上で、それに付随して、聞いた方が掘り下げられるの ではないかな。
委員	前回、事前シートで個人を特定しすぎる設問をすると、母親たちが話しづらくなるという 意見があった。こんなことを聞きたいという用紙を提示しておくぐらいで、対象者が10人 ほどなら統計を出しても意味がないので、フリートークとして意見をもらった方が有意義で はないかな。
委員	障害の程度などは聞かない方がよいと思う。話は戻るが、学童クラブ指導員とPTAの話 で、これを一緒にすべきか。別にした方がよいと思うがどうか。
委員	私は一緒でよいと思う。PTAの方たちは学童クラブについてわからないし、そういう 方々の思いを聞きたいところもあるのではないかな。
委員	PTAの方がいると学童クラブの方が本音を言えなくなる。
委員	学童クラブの方は午前中か終わったあとか、時間帯が決まってくるのではないかなと思う。 PTAとは時間を合わせにくいのではないかな。
委員	PTAの方も一般の方が、会長なのか、どのような方を呼ぶべきか決めなければならない。
委員	相反するお互いの言いたいことを言うわけではなく、子どもたち、地域の様子から自分の 考えていることを言うのであれば、利害関係はないと思う。メリット、デメリットがあると思 うので、デメリットは2回分けて場を設ける、聞く側が大変なだけなのではないかな。
委員	子どもたちの様子を言うことは、親子関係のことを言うことになるので、学童クラブの方 が気を遣ってしまうのではないかな。何人集めるかは決まっているのか。どう選抜するのも 問題である。あとは、事前シートで何を聞くかを決めればいけない。
委員	資料6の1ページ目で、前回みんなで話したことが結構まとまっていると思ったのだが、

	学童クラブ指導員とPTAのところだけが、今後墨田区ができることや支援が必要なことがないため、入れた方がよいと思う。できれば、今すぐやってほしいこと、長期的に解決してほしいところを聞きたい。私たちは、必要なことは何でも言えてしまうが、いろんな要望がある中で、先生たちが感じている優先順位が高い順番を教えてください。
委員	障害のある子どもをもつ保護者のところで、(5)の「隣近所とのつきあい方」というのは、どういう意図で質問しているのか。隣近所にご迷惑をお掛けしないようにということなのか。だとしたら、質問を隣近所との関係で困っていることにした方がよいと思う。
事務局	今回、土台のものについて意見をいただいて、それを今度の親会議に出して、この方向性を確定しておき、細かな部分は実施のときにつくりあげる形でいかがか。
委員	7番に「将来で困っていること」を入れてほしい。
委員	中学生、高校生のインタビューは、墨田区の中学校を卒業した高校生を北部1校、南部1校として集める形でよいか。何人集めるか。
委員	座談会であればそんなに人数はいらない。多いと全員がしゃべられない。
委員	核になる子がいて、20人くらいが話しやすい。
委員	男女比の問題はどうだろうか。前は16人で男子が11人、女子が5人。
委員	来てもらうのは難しいと思う。図書館には勉強している学生が多いので、そういった子に聞くか、学校の先生にお願いして、お昼休みの時間を使わせていただく方が、区役所に来てもらうよりもよいかと思う。
委員	成人の集いの実行委員に声をかけてはどうか。
委員	毎回15、16名集めるが集めるのが大変。今は個人情報の保護の問題があるので、なかなか調べられない状況にある。
委員	生徒会長などの電話番号を聞いて、育成委員会の方でお願いするという形はどうか。
委員	塾や図書館に声を掛けるのはどうか。
委員	学校に直接集めるのは難しい。前回集めることができたのは、学校側の協力があつたから。
委員	現状の問題について学童クラブを行っている方に聞いてみたい。障がいのあるお子さんというのは、特別支援学級に通っている方でよいか。
委員	デリケートな問題なので、障がいのある子の意見を集めるのは難しいのではないかな。
委員	小学生の場合は、障がいを持つ子どもの扱いが、特別支援級や一般のクラスであったりいろいろ。子どもとの付き合い方や先生の対応など、違っていると思う。その辺を保護者の方が、どのように考えているのか。
委員	普通級にいける方は、あまり問題はないのではないかな。普通級に行けなくて、この先どうしたらよいかという方たちの意見を聞くのではないかな。
委員	保護者によっては、どうしても普通級に行かせたいと思う方もいるのではないかな。
委員	今の保護者は、ついていけなくなってしまうような選択はあまりしない。子どもにあった指導をしてもらった方がよいと思う方が増えていると思う。
委員	ボランティアで養護学校の指導員をしていたが、高校生までなると中学校は普通級に通っていたなどいろいろ聞いた。就職する子や施設に入る子などいろいろな子がいる。もともと10人ぐらいしか聞かないため、かなりバイアスがかかってしまう。どのくらいの子をターゲットにするかは決めておいた方がよいのではないかな。

委員	子どもの年齢によっても保護者の考え方は違ってくる。
委員	前は小学生になる前で、発達障がいという特殊な一面に聞いた。その段階だとこれから何が起こるのかというのがわかりづらい。高校まで行くと就職するか施設に入るかの間で悩んでいる方に聞いた方がよいと思う。
委員	相談会などがあるが、そのような場を利用するのはどうか。
委員	ある程度話を伺う場は決まっているのではないかと。支援学校の中で10名ぐらいでもよいのではないかと。
委員	前回聞いた方に聞くのであれば、今困っていることや、振り返ってもらって意見を伺えば参考になるのではないかと。
事務局 (名豊)	事前シートについて、ご意見を頂きたい。郵送式で行うニーズ調査の項目と比較できるように項目をそろえてはどうか。事前シートについてはこちらのほうの項目から抜粋するという形で考えていきたいがよろしいかと。
委員	たくさんになりすぎなければよいのではないかと。
委員	中高生のところで墨田区に住み続けたいですかという割合で、中学生と高校生では中学生が低くなっている。その時の結果でばらつきはあると思うが、インタビューをするときになぜそうなると思うのか聞くのはどうか。
委員	中学生ぐらいのときは自立したいというところが強くでて、高校生ぐらいになると少し落ち着いて、大学に行くのかなり現実味がでてくるのではないかと。
委員	墨田区でもっとこうしたらよいと思うところを聞けたらよいのではないかと。住んでよかったこと、励みになったことだけでなく、もっとこうだったらよいという部分を聞いたらどうか。
委員	1番の「好きなところ」と、「強み」は重複するのではないかと。
委員	「強み」というのはどのようなことを期待しているのか。「好きなところ」、「よいところ」と聞いたほうがわかりやすいのではないかと。
委員	高校生の時、千葉に住んでいたが、おしゃれなまちなので原宿や渋谷にあこがれていた。墨田区に対しても伝統があってよいなどそのような回答が得られればよいのではないかと。
委員	「日頃共感を覚えたり、影響を受けたりするもの」というのは、何でもよいのか。
事務局	本日提示した項目は大きな柱で、漠然とした質問になっているため、答えにくいかもしれない。このような方向で問題なければ実際のインタビュー方法をつくりあげていく時に考えていこうと思っている。
委員	具体例がでていとよいのではないかと。
事務局	質問に関しては、出てきた意見から掘り下げていけば変わってくると思う。
委員	資料3の小学生のお子さんの保護者の方の6ページに、「携帯電話、タブレット、パソコンをもちますか、また、それを使いはじめたのはいつ頃からですか。」と書いてあるが、これは子ども専用のものであるのか、家族で持っているのかで全く違ってくると思うので、その辺りをわかりやすくしたほうがよいのではないかと。
事務局	今、子ども一人に1台与えているところもあるので、携帯電話を共有しているとは考えにくい。
委員	パソコンやタブレットは共有しているところがあるのではないかと。

委員	専用のものであるという意図で書いてはあるが、紛らわしいので表現を修正した方がいい。
委員	配っていただいたのは前回のインタビュー調査の事前シートと結果を見てみると、Nが小さいものでもグラフがつくってある。
委員	学童クラブ指導員、PTAの関係でこの方々に集まっていただくので、放課後子ども教室を全校で行うという動きがあるので、あり方について学童クラブ指導員やPTAがどのように思っているのか、学校によって全然違うので、実際に行っているところもあれば、行えないところもある。そのようなことに対して、どのように思っているのか聞きたいと思う。
委員	この人達に聞くのであれば、学齢の参加していただき聞きたいことを追加していただくのはどうか。
委員	外国人なので、1項目でもよいで、外国人の家庭の子育てで、どのような問題があるのか、ということを加えていただきたい。外国人の観光客も増えてきて、区の中には外国人で永住権を持っている家庭もあるので、外国人のこともいれたらよいと思う。

#### 次回評価指標検証 WG 開催予定等について

親会議の協議結果を受けて、事前調査シートや協力依頼など具体的な方法を示す。次回会議は、親会議の結論を踏まえて、日程調整をする。

以上